

第4学年2組 道徳科学習指導案

【日時】令和2年11月12日(木) 【場所】メディアセンター 【指導者】水田 雄治

本授業の主張点

本授業では、児童が道徳的問題場面(気になる所)から道徳的課題(テーマ)を見いだす流れを、授業の導入から展開の中に位置付けています。終末では、道徳的実践意欲や態度を育むために「こんな人になりたい」を考える場を設けます。これらの活動を通し、実践に向かおうとする児童の姿をお見せします。

- 1 主題名 きまりは何のため? 【内容項目 C-(11) 規則の尊重】
- 2 教材名 『道子の赤い自転車』(出典:新・みんなの道徳 4年 学研)
- 3 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

児童が成長するには集団や社会を構成する一員として、様々な規範を身に付けていくことが必要である。そのためには、よりよい人間関係を形成する上で、集団や社会のために自分が何をすればよいのかを考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養うことが不可欠であると考え。しかし、「規則の尊重」とは児童にとって、「きまりを守ること」であり、「面倒くさい」といった自分本位に考えてしまいがちになるものである。そのため、きまりは個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解すべきである。そして、「どうすればきまりを守ることができるのか」について考え、行動することによって、これからの人生がよりよいものになると捉えている。

○ 本時に関わる児童の実態について

本学級の児童は明るく、休み時間には元気よく外で遊ぶ姿が多く見られる。しかし、早く外で遊びたいという気持ちを抑えきれずに、廊下を走ったり、トイレのスリッパを並べなかったりと、公共の場である学校のきまりを守らずに注意を受けることがあった。

また、本教材に関わるアンケートにおいて「きまりを守っていますか」の質問に35名中15名程度が「守れていない」「あまり守れていない」と回答していた。理由として、「注意を受けても、つい廊下を走ってしまう」が大半を占めていた。このことから、いけないことだと分かっているにもかかわらず、ついやってしまうという人間理解の部分に強く影響されていることがわかる。きまりについて考え、話し合うことで、よりよい生き方を志向する児童の姿を期待している。

○ 教材の活用について

本教材は主人公の道子が、ピアノのレッスンに遅れないために、停めてはいけない場所に自転車を停め、電車に乗ってピアノ教室に行く。しかし、ホームで電車を待っていると、ベンチに座っている女の人2人が大きな声で自転車の迷惑駐車について話しており、それを聞けば聞くほど、心配になる道子。ピアノのレッスン中も自転車のことばかりが気になり、練習してきたはずのピアノを上手に弾けず、注意を受けるが、帰り道では、注意されたことも上の空で、「頭の中は、自転車のことでいっぱいです」で終わる話である。「他の人も守っていない」や「面倒くさい」などの人間的な弱さの部分や、「どうすればきまりを守ることができるのか」について考えることに適した教材である。

○ 指導の重点

まず、導入においては、以前行ったアンケートを想起し、現段階における規則の尊重についての価値観を確認する場を設ける。また、きまりを守ることに関して、「他の人も守っていない」や「面倒くさい」など、人間理解も併せて行うことで道徳的課題を考える際の布石とする。

展開の前半部分では、教材を読んで道徳的問題場面を考えるように促す。その理由を聞いたり、教師が価値の整理をしたりして、児童へ問題場面を明確に示すことで道徳的課題を考えるよう促す。その後、自転車を置いてしまった道子の行動を「仕方ない」か「よくない」かについて話し合うことで、きまりを守ることに多面的・多角的に考えさせる。

展開の後半部分では、なぜきまりがあるのかについて話し合い、今日の道徳的課題(テーマ)についてのまとめを行う。その際、「○○をする」といった行為の決意表明に留まらず、なぜそうするのかという判断基準(理由)も併せて意識化させ、発表につなげる。

終末では本授業やテーマのまとめから、「こんな人になりたい」を書くように促す。その後、ペアや全体で共有して友達の意見を聞くことで、道徳的実践に結び付けることができるように意欲付けを行う。

4 本時の指導

(1) ねらい

きまりは何のためにあるのか、どうすればきまりは守れるのかについて話し合い、これからの生き方について考えることを通して、実践に向かおうとする道徳的実践意欲や態度を育む。

(2) 展開

過程	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 期待する児童の姿
導入	1 規則について想起し、今の自分について考える。 (10分)	○ 規則の尊重とは何ですか。 ・ きまりを守ること ・ きまりを大事にすること ○ 身の回りにあるきまりとはどんなものがありますか。 ・ 廊下を走らない ・ スリッパを並べる	1-(1) 規則について、アンケートを想起し、現段階の価値観を考えるように促すことで、ねらいに関わる方向付けを図る。 1-(2) 自分の身の回りにあるきまりについて考え、テーマを考える際の布石とする。
展開	2 教材「道子の赤い自転車」を読んで話し合う。 (20分) (1) 教材文を読んで道徳的問題場面を見つける。 (2) 道徳的課題を考える。	○ きまりを守ることの難しさは何ですか。 ・ 友だちがやっていると自分もやってしまう ○ 教材文を読んで友だちと話し合いたい所はどこですか。 ・ なぜ、置いてはだめな所に自転車を置いたのか ・ なぜ、頭の中は自転車でいっぱいなのか。	1-(3) きまりを守らなければいけないことは分かっているが、つい自分勝手な行動を取っていることを振り返り、規則の尊重に係る人間理解を促す。 2-(1) 教材文から、みんなと一番話合いたい所を決めさせた後、発表させる。 2-(2) 出てきた道徳的問題場面から教師が整理をし、明確にすることで、道徳的課題を考える場を設定する。
	どうすればきまりを守ることができるのか考えよう。		
展開	(3) 道子がとった行動について話し合う。	○ 道子さんのとった行動についてどう思いますか。 仕方ない ・ 急いでいるから ・ 自分だけではないから よくない ・ 他の人の迷惑になる ・ 後で後悔する	2-(3) 仕方ない、よくないに分かれて話し合いをする。その際、主人公の置かれている状況を押さえ、急いでいるから、みんなもしているから等の人間の弱さに触れる。導入において自分たちにも難しさがあることを想起させることで主人公への共感を図りながら話し合いを進める。
終末	3 規則について考え、守るためにできることを考える。 (10分)	○ なぜきまりがあるのでしょうか。 ・ 迷惑をかけないため ・ みんなの生活を守るため ○ どうすればきまりを守ることができるのでしょうか。 ・ 周りの人を意識する ・ 冷静になって考える	3-(1) 話し合いを通して、なぜきまりがあるのかについて考えることで、テーマのまとめへつなげる。 3-(2) 本時のテーマについて考え、まとめをノートに記述するよう促す。その際に行為のみの決意表明とにならないために判断基準(理由)も書くように促す。
	4 ねらいとする価値への意欲付けをする。 (5分)	○ 「こんな人になりたい」を考えましょう。 ・ きまりを守ろうとする人 ・ 周りを冷静に見られる人 ・ 冷静に判断ができる人	4 こんな人になりたいについて書いたことを近くの児童と交流させ、意図的に指名して発表を促すことで、ねらいとする価値への意欲付けを図る。 本時の学習を通して、きまりについてのこれからの生き方について考えることができる。

